

社会・地歴・公民科の研究の概要（１年次）

1 社会・地歴・公民科における思考力・判断力・表現力を育成する言語活動

(1) 社会・地歴・公民科における「言語活動の充実」のとらえ方

社会・地歴・公民科における「自ら考え判断し，表現できる力」とは，各種の資料の中から，課題を解決するために必要な資料を選択して有効に活用することで社会的事象を多面的・多角的に考察し，公正に判断したことを適切に表現できる力のことであり，それらは，関連し合いスパイラルに育成されていくものである。

これまでの社会・地歴・公民科においても，各種の資料に基づいて社会的事象を考察したり，観察や調査などを通して追究した過程や結果を整理したり，まとめたりするなどの学習活動を行ってきた。したがって，その成果の積み上げを基に，これまでの社会・地歴・公民科の指導を振り返り，言語活動の視点を明確にして系統的，計画的に取り組むことが大切である。

そこで，学習指導要領の改善の基本方針を踏まえ，社会・地歴・公民科における言語活動を「読み取り」，「解釈」，「説明」，「論述」の四つに分けて整理し，問題解決的な学習の指導計画に位置付けて取り組むことで，言語活動の充実が図られ，「自ら考え判断し，表現できる力」の育成につながると考えた。

四つの視点でとらえた言語活動

「読み取り」	… 社会的事象に関する事実を調査見学や地図，統計など各種の資料等を基に読み取る活動
「解釈」	… 社会的事象のもつ特色や意味，意義について各種の資料等を基に考察する活動
「説明」	… 社会的事象間の関連を各種の資料等を基に考察し，表現する活動
「論述」	… 社会的事象について自分なりの考えを各種の資料等を根拠に表現する活動

(2) 言語活動の充実を図る学習指導の工夫

ア 長期的視点に立った言語活動の充実

「自ら考え判断し，表現できる力」を育成していくためには，長期的な視点から，各校種間の系統性を踏まえて指導することが重要である。

例えば，育てたい力と充実させたい言語活動例を明記した指導内容系統表を作成し，単元において育てたい力と言語活動の四つの視点を踏まえた指導を行うことが考えられる。

イ 指導計画における言語活動の充実

育てたい力を育成するためには，「どのような場面」で，「何を活用」して，「どのような言語活動の取組」を行うことが有効なのかを考えることが大切である。その場合，1単位時間だけでなく，単元全体を通して，社会・地歴・公民科における四つの言語活動の視点を踏まえながら計画的に取り組むことが大切である。

その際，一人一人の児童生徒が主体的に言語活動を展開していくことができるようにするとともに，各学習過程で充実させたい言語活動を意識して指導することが大切である。

ウ 授業における言語活動の充実

これまでの社会・地歴・公民科においても，言語活動の充実を図る取組は行われてきたが，より一層充実させるために，言語活動の四つの視点を基にした学習指導の改善に取り組むことが大切である。中でも，「説明」では，社会的事象を比較することで明らかになった特色や因果関係などから考察したことを表現させたり，「論述」では，自分なりの考えを未来予測や価値判断の観点から表現させたりすることに重点を置くなど，学習活動の質の向上を目指した取組が求められる。

2 社会・地歴・公民科における「思考・判断・表現」の評価

(1) 評価の観点全般について

小・中学校社会科の観点別学習状況の評価の観点については、従来の「社会的な思考・判断」に「表現」が追加され、次の4観点で整理され設定された。

【小学校】

評価の観点	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 of 技能	社会的事象についての知識・理解
趣旨	社会的事象に関心をもち、それを意欲的に調べ社会の一員として自覚をもってよりよい社会を考えようとする。	社会的事象から学習問題を見いだして追究し、社会的事象の意味について思考・判断したことを適切に表現している。	社会的事象を的確に観察、調査したり、各種の資料を効果的に活用したりして、必要な情報をまとめている。	社会的事象の様子や働き、特色及び相互の関連を具体的に理解している。

【中学校】

評価の観点	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用 of 技能	社会的事象についての知識・理解
趣旨	社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、よりよい社会を考え自覚をもって責任を果たそうとする。	社会的事象から課題を見だし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	社会的事象に関する諸資料から有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身に付けている。

高等学校においては、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会の「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（H22年3月）を踏まえ、次のように整理した。

【地理歴史科】

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
趣旨	歴史的・地理的事象に対する関心と問題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。	歴史的・地理的事象から課題を見だし、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	歴史的・地理的事象に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色について基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。

【公民科】

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
趣旨	現代の社会と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとする。	現代の社会と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	現代の社会と人間にかかわる事柄に諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	現代の社会的事象と人間としての在り方生き方とにかかわる基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。

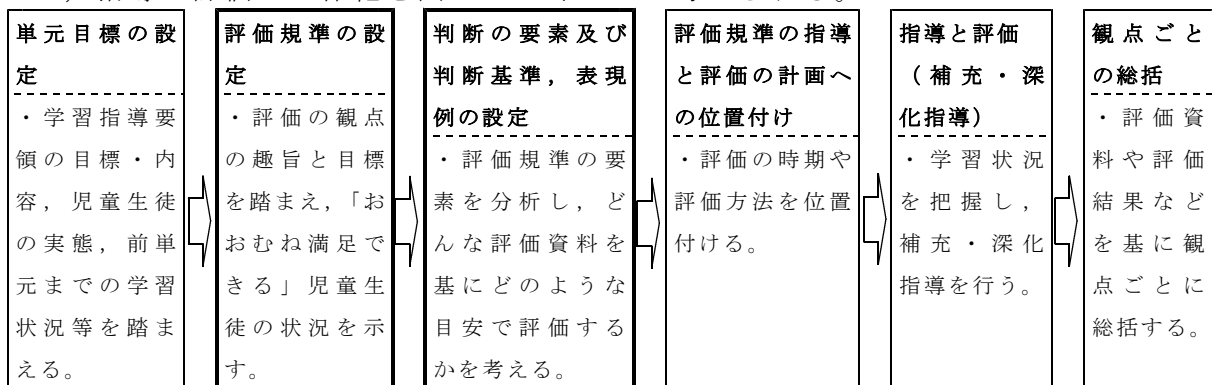
(2) 「思考・判断・表現」の観点について

「思考・判断・表現」とは、これまで以上に「思考・判断し表現すること」を重視する趣旨で変更された観点で、そうした力を身に付けているかどうかを評価する観点である。社会事象から課題を見だし、思考・判断したことは、「話す」「書く」などの言語活動で表現される。この言語活動を通して評価することを意図した観点である。

「思考・判断・表現」の観点の評価に当たっては、児童生徒が思考の過程や結果を他者に分かりやすく表現しているというだけでなく、課題に対して、何を根拠にどのように考え、思考を深めたのかということを経営的に捉える必要がある。例えば、「何を学んだのか、どのように考えたのか、どのように発展させたのか」などを記述させ、児童生徒の学びの軌跡を追跡するような、質的な評価が必要である。

(3) 「思考・判断・表現」の観点の具体的な評価の進め方について

「思考・判断・表現」の観点の評価を進めるに当たっては、次のような手順で進め、指導と評価の一体化を図っていくことが考えられる。



具体的な評価の進め方について、ここでは「評価規準」と「判断の要素」及び「判断基準」の設定について述べる。

ア 評価規準の設定

評価規準とは、学習指導要領の目標や内容に準拠して「おおむね満足できる」と判断できる児童生徒の学習の状況を示したものである。つまり、「児童生徒に何を身に付けさせたいのか」といった目標の質的な拠り所を示したものである。したがって、その設定に当たっては、単元の目標は何であるのかを明確にした上で、その目標を達成するために、何をどの程度まで「結果」として実現すればいいのかを考え、児童生徒の学びの姿で設定することが必要である。

イ 「判断の要素」及び「判断基準」、「表現例」の設定

授業者は、児童生徒が、目標を達成するため評価規準に到達しているかどうかを判断する必要がある。そのためには、あらかじめ「判断の要素」と「判断基準」を明確にし、「おおむね満足できる」状況の児童生徒の姿を想定しておくことが必要である。社会・地歴・公民科における「判断の要素」と「判断基準」の設定については、評価規準を基に、次の二つの視点を踏まえて設定することが大切であると考えられる。

- 習得すべき基礎的・基本的な知識、概念や技能を活用しているか。
- 社会・地歴・公民科における言語活動の視点を踏まえているか。

社会・地歴・公民科は、社会認識形成を通して市民的資質の育成を図る教科である。社会認識は、知識、概念を基盤に形成される。児童生徒は、学習してきた内容を知識として獲得し、その獲得した知識を基に思考・判断し、概念や中心概念を捉えていく。評価規準は、学習指導要領に示された社会・地歴・公民科の目標を基に、単元や1単位時間で育成したい知識、概念等を踏まえて設定される。

したがって、適切な評価を行うには、評価規準を分析し、「判断の要素」としての習得すべき知識、概念等を明確にしておくことが必要である。さらに、「判断の要素」を基に「おおむね満足できる」状況を具体的に表した尺度としての「判断基準」を設定しておくことが習熟の程度に応じた指導を行う上で必要である。

また、児童生徒の思考の過程は、習得すべき基礎的・基本的な知識、概念や技能を、どのように活用しているかを把握することで、見取ることができる。社会・地歴・公民科では、「説明」「論述」等で表出させることが考えられるが、その際、次のような内容を踏まえることが大切である。

- 「説明」 → 事象の特色について「比較」を通して説明している。
 → 事象間の関連について「原因－結果」「目的－手段」で説明している。

「論述」 → 社会的事象についての自分なりの考えを各種の資料等を根拠に論述している。

以上のことを踏まえ、「判断の要素」及び「判断基準」等の設定例を次に示す。

【小学校 社会科第四学年 小単元名「のこしたいもの、つたえたいもの」における判断基準等の設定例】

評価規準（「社会的な思考・判断・表現」）	
○ 「おはら祭り」の歴史、そこに関わる人々の思いや願い、努力について調べたことを基に、考えたことを、絵カードにまとめ説明している。	
評価の時期及び評価の対象	
○ 9時間構成の第6時における問題追究場面でのまとめの時	
○ グループで話し合ったことを分類・整理した内容（絵カード）	
判断の要素	
ア 基礎的・基本的な知識、概念や技能の活用 ① 祭りの歴史 ② 人々の思いや願い ③ 人々の努力 ④ 絵カード	
イ 社会科における言語活動の視点 ○ 説明（事象間の関連）	
尺度	判断基準
B	ア 基礎的・基本的な知識、概念や技能の活用 ① 「おはら祭り」は、今年で60年目を迎える祭りであることを捉えている。 ② 戦争で被害を受けた市民を元気づけよう、まちを盛り上げようという人々の願いから始められたということを捉えている。 ③ 保存・継承していこうとする多くの人々の関わりや努力によって受け継がれてきているということを捉えている。 ④ 絵カードにまとめている。 イ 社会科における言語活動の視点 ○ アの①～③を関連付けて、「なぜ、『おはら祭り』は60年間続いているのか」を説明している。 （予想される児童の表現例） 「おはら祭り」は、「太平洋戦争で被害を受けた鹿児島市民を元気づけよう、市民のつながりを深めようという思いから始まった祭りで、60年たった今もその思いが引き継がれ、様々な人々の努力によって続けられている。
C 状況の児童への指導	○ Bの要素をもとに補充指導を行う。 「おはら祭り」についてこれまで調べたことを、判断基準①～③の要素で振り返らせ、関連付けさせる。
尺度	判断基準
A	（判断基準Bに加えて） ○ 人々の思いや願いを「おはら祭り」の今後と結び付けて考えている。 ○ 他の伝統や文化についても思考を広げている。
B 状況の児童への指導	○ Aの要素等をもとに深化指導を行う。 ・ 未来志向的な考えをもたせる。 ・ 「おはら祭り」以外の県内の祭りへも思考を広げさせる。

※ 鹿児島市立山下小学校の実践例を基に作成

【平成23年度 調査研究発表会】
第2分科会(社会・地歴・公民科)研究発表

「思考力・判断力・表現力を育成する
指導と評価に関する研究」

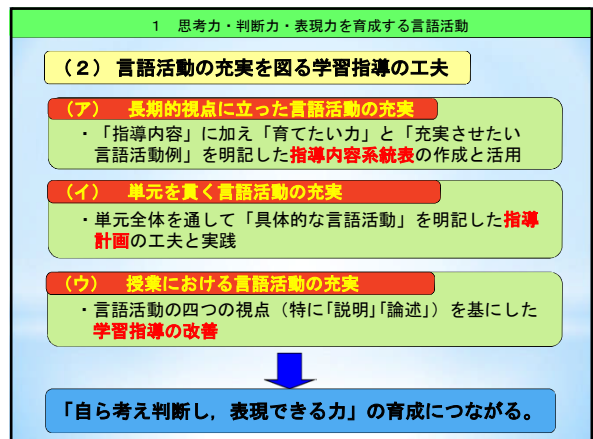
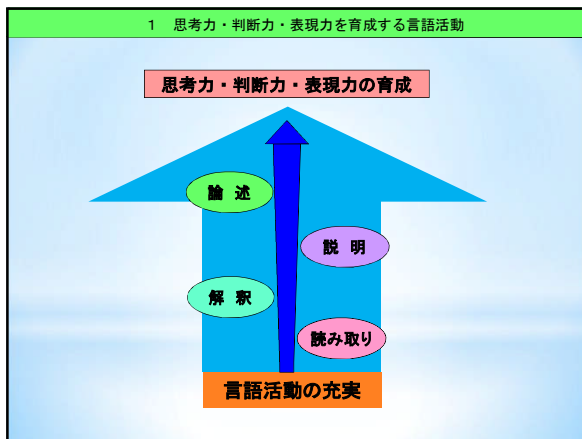
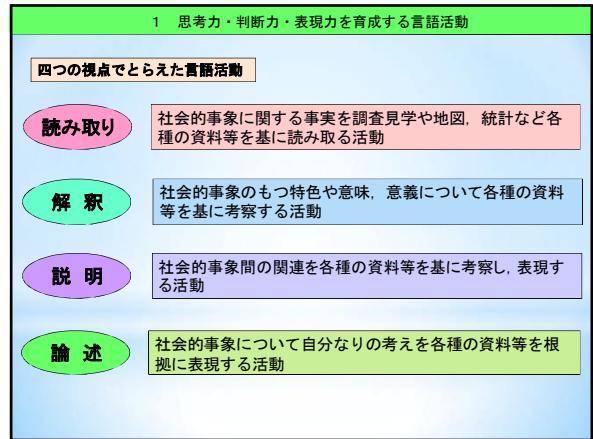
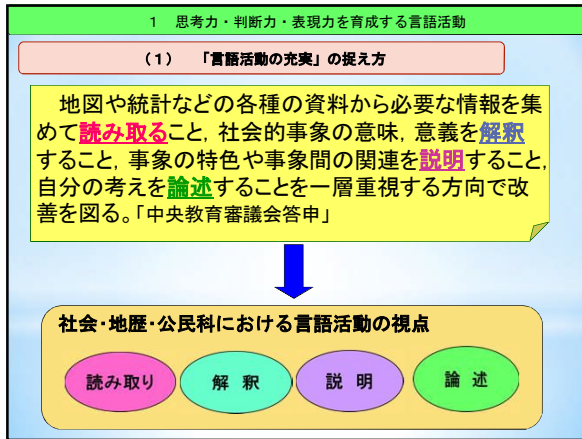


パルテノン神殿 (ギリシア)

鹿児島県総合教育センター

研究発表の内容

- 1 「思考力・判断力・表現力」を育成する言語活動
 - (1) 「言語活動の充実」の捉え方
 - (2) 言語活動の充実を図る学習指導の工夫
- 2 「社会的な思考・判断・表現」の評価
 - (1) 学習評価の観点について
 - (2) 「思考・判断・表現」の観点について
 - (3) 「思考・判断・表現」の観定の具体的な評価の仕方について
- 3 研究の成果と課題

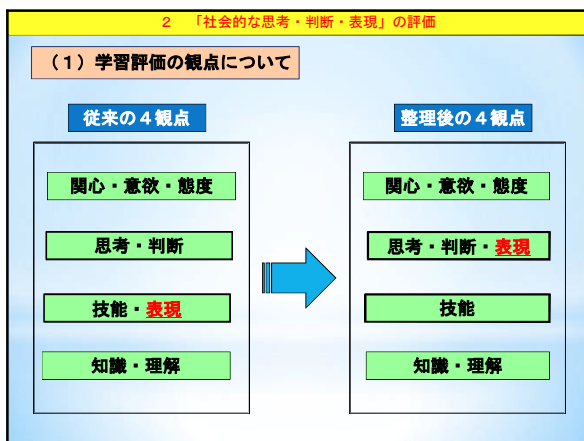
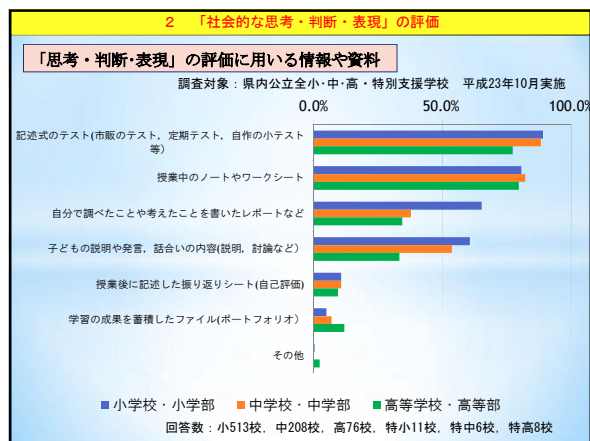


1 思考力・判断力・表現力を育成する言語活動			
「気候」に関する学習の指導内容系統表			
項目	小学校	中学校	高等学校
学習指導要領に示された内容	我が国の国土の自然などの様子について、地図その他の資料を活用して調べ…(後略)。	自然環境から見た日本の地域的特色と世界的視野から見て、日本は…	世界の地形、気候、植生などから系統地理的にとらえる視点や方法を学習…
押さえておきたい基礎的・基本的な知識	北海道以外では5月から7月にかけ梅雨の時期になり、曇りや雨の日が続く。夏は気温や湿度が高いので蒸し暑い。	夏前に、日本列島に前線が停滞し梅雨になる。梅雨が明けると太平洋からの…	初夏にはオホーツク海気団と小笠原気団との間にできた梅雨前線帯が…
充実させたい言語活動例	日本の南と北では気候にどのような特色が見られるのか。また気候と人々の生活や産業との関連についてまとめ、発表する。	国内では、気候において地域差が見られることを種資料を基に読み取ると…	ケッペンの気候区分等の種資料を基に、世界の気候の特色についてまとめ…
育てたい力	自ら考え、判断する力	我が国は南と北では気候に大きな違いがあり、人々の暮らし方にも違いが見られるといったことについて多面的に考察することができる。	世界的視野から見た日本の気候の特色について多面的・多角的に考察することが出来る。
	資料を活用し、表現する力	我が国の南と北の気候の特色に関する各種の基礎的資料を活用して調べ、気候の特色や人々の暮らし方について違いが見られるといったことを分かりやすく表現することができる。	世界や日本の気候の特色に関する様々な資料を収集し、適切に選択・活用して調べ、大気の大循環やモンスーン…

1 思考力・判断力・表現力を育成する言語活動			
ジグソーメソッドを取り入れた単元の指導計画例			
過程	主な活動内容	形態	指導上の留意点 ～充実させたい言語活動～
1	学習問題を立てる。	一斉	1 諸資料を読み取り、問題意識をもたせる。
2	学習問題に対する予想を立てる。		2 既習の知識、概念や技能を基に予想させる。 <ジグソーグループを構成する。>
3	学習問題を解決するための追究の柱を立てる。	JG	3 学習問題の解決に迫るような追究の柱を考へさせる。
4	追究の柱について調べる。		4 調べ方を話し合っ後、一人調べさせ、調べたことを基に分析・考察し自分の考えを深めさせる。
5	追究した結果について説明する。	KG	5 課題別グループ内で説明及び評価をさせる。
6	追究したことをまとめる。	KG	6 説明内容を評価を基に改善し、課題別グループでまとめさせる。
7	学習問題の解決を図る。		7 課題別グループでまとめたことを基に、各ジグソーグループで討論をさせ、学習問題の解決を図らせる。
8	学習問題に対する自分の考えをまとめる。	一斉	8 討論等を基に自分の考えをまとめさせる。
9	単元のまとめをする。		

(JG:ジグソーグループ KG:課題別グループ)

1 思考力・判断力・表現力を育成する言語活動	
授業における言語活動の工夫	
学習活動の観点	充実させるための工夫
読み取り	資料活用 ・ 疑問を際したり、課題を見える資料を提示する。 ・ 資料の見方(資料の軸刺、内容、内容分析)を学習させる。
表現	読み取りの視点を示したワークシートを工夫し、表現させる。 「どのようなことが読み取れますか。」
解釈	資料活用 ・ 自分の考えの拠拠となる事象を異付けさせる。 ・ 社会的事象の持つ意味や意図を認識させるワークシートを工夫し、表現させる。
説明	「どのようなことが考えられますか。」 資料活用 ・ 因果関係のための拠拠となる資料を子どもに収集・選択させる。 ・ 社会的事象の特色や関連などについて、思考を促めさせたり、視点を拡大させたりできるような資料を提示する。 ・ 社会的事象の特色を他の事象と比較し、考察したことを表現させる。 ・ 社会的事象の関連について、因果関係や目的と手段の関係などから考察したことを表現させる。
論述	「なぜこのようになっていると思いますか。」 資料活用 ・ データからグラフを作成させ、関係を整理させる。 ・ 社会的事象に関する自分の考えを整理するための拠拠となるような資料を収集・選択させる。また、採用した資料は適切であったか、採用の仕方は効果的であったか など次への生かし方を考えさせる。 表現 ・ 社会的事象に関する自分の考えについて諸資料等を基に表現させる。 ・ 単元の学習のまとめや課題解決を求める学習等で行わせる。 評価 ・ 「このことについてどのように考えますか。」



2 「社会的な思考・判断・表現」の評価

(1) 学習評価の観点について

教科	社会的な思考・判断・表現	評価の観点	社会的な思考・判断・表現
社会(小学校)	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 の技能	社会的な思考・判断・表現
社会(中学校)	社会的な思考・判断・表現	資料活用 の技能	社会的な思考・判断・表現
地歴・公民(高校)	社会的な思考・判断・表現	資料活用 の技能	社会的な思考・判断・表現

2 「社会的な思考・判断・表現」の評価

(2) 「思考・判断・表現」の観点について

「思考・判断」に「表現」を加えた趣旨

「思考・判断」に係る学習評価を、言語活動を中心とした表現に係る活動や児童生徒の作品等と一体的に行うことを明確にした。

評価にあたって

基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ、思考・判断したことを、記録、要約、説明、論述、討論といった言語活動等を通じて評価すること。

2 「社会的な思考・判断・表現」の評価

(3) 「評価」の具体的な進め方について

単元目標の設定

評価規準の設定

判断の要素・判断基準・表現例の設定

評価規準の指導・評価の計画への位置付け

指導と評価(補充・深化指導)

観点ごとの総括

評価規準…「おおむね満足できる」児童生徒の姿

判断の要素…評価規準を分析したものの

判断基準…判断の要素を具体化した尺度(レベル)

2 「社会的な思考・判断・表現」の評価

(小学4年社会の例)

「おはら祭り」の歴史、そこに关わる人々の思いや願い、努力について調べたことを基に、考えたことを、絵カードにまとめて説明している。

評価規準

判断の要素

判断基準(A)

判断基準(B)

表現例

知識、概念や技能の活用

①祭りの歴史

②人々の思いや願い

③人々の努力

④絵カードの活用

社会科における言語活動の視点

「説明」(事象間の関連)

状況の児童入

状況の児童入

深化指導

補充指導

判断の要素を基に、おおむね満足できる状況として具体的に示した尺度

2 「社会的な思考・判断・表現」の評価

判断の要素の設定

評価規準

判断の要素

判断基準

表現例

評価規準を分析し、規準を満たす要素を列挙する。

「おはら祭り」の歴史、そこに关わる人々の思いや願い、努力について調べたことを基に、考えたことを、絵カードにまとめて説明している。

知識、概念や技能の活用

① おはら祭りの歴史

② 人々の思いや願い

③ 人々の努力

④ 絵カード

社会科における言語活動(説明)

①～③を関連付けて説明

2 「社会的な思考・判断・表現」の評価

判断基準(B)の設定

判断の要素

判断基準(B)

表現例

評価規準

判断の要素

判断基準

表現例

知識、概念や技能の活用

① おはら祭りの歴史

② 人々の思いや願い

③ 人々の努力

④ 絵カード

社会科における言語活動(説明)

①～③の関連付け

判断の要素を基に、おおむね満足できる状況として具体的に示した尺度

2 「社会的な思考・判断・表現」の評価

表現例の想定

判断基準(B)

表現例

評価規準

判断の要素

判断基準

表現例

「判断基準(B)」に基づき、児童の表現例をあらかじめ想定したもの

知識、概念や技能の活用

①「おはら祭り」は戦後始まり、今年で60回を迎える。

②戦災を受けた市民を元気づけようという願いから始まった。

③多くの人々の関わりや努力によって受け継がれてきた。

④絵カードに考えたり、調べたりしたことを分類・整理している。

社会科における言語活動(説明)

①～③を関連付け説明している。

「おはら祭り」は、太平洋戦争で被害を受けた鹿児島市民を元気づけよう、まちを盛り上げようとする人々の思いや願いから始まったお祭り、その思いや願いを引き継ぐ多くの人たちの努力や取組によって、今年で60回を迎える鹿児島の代表的なお祭りです。(絵カードに表現)

「判断基準」を設定して
評価することのメリット

「判断の要素」「判断基準」の設定、
「表現例」の想定を行って指導、評価
を行うことによって



よりの確な
評価



判断基準 (B)
(C) 状況の児童生徒への補充指導の指針

判断基準 (A)
(B) 状況の児童生徒への深化指導の指針

研究の成果と課題

研究の成果

- 実態調査の分析結果から、社会・地歴・公民科における言語活動の充実と評価の実態と課題を明らかにできた。
- 社会・地歴・公民科における評価の観点を整理し、指導と評価を一体化して捉える指導の有効性を明らかにできた。
- 研究協力員との連携により、研究成果が実証され、評価を生かした指導の具体的な実践例を示すことができた。

今後の課題

- (C) 状況の児童生徒に対する補充指導や、(B) 状況の児童生徒に対する深化指導の在り方について研究を進める必要がある。